



蔵本通支坊の様子。徐々に外が明るくなる。若い人も多い。

修正会



たくさんの参詣者。(長ノ木本坊)

除夜の鐘

御正當報恩講

年が明け二〇二三(平成25)年、一月十六日は七五一回目の「御正當(親鸞聖人の祥月命日)」でした。この辺では「おたんや」の名で親しまれていて、ご本山にお参りできない人のために「ご正當」もつとまります。

三津田支坊では広幡康祐先生が「仏教に聞く、今をどう生きるか?」というテーマで法話。お善哉のお接待もありました。

長ノ木本坊はご講師をたのまない自勤法座 恒例の御示談(仏法・人生相談)や『御絵伝(親



1月15日の夜、大速夜は残口ウでお寺をライトアップ。『御伝鈔』拝読と白味噌仕立てのお雑煮のお接待がありました。

鸞聖人の伝記絵巻物』の絵解き、今年は特に新屋まりライブ「平安なれ幸いなれ」も行われました。昨年はNHK大河ドラマ「平清盛」ブームでした。が、新屋さんは平家をテーマにした曲を披露、透き通った声が本堂に響きわたりました。曲の合間には、法然聖人門下で平家と関係の深い勢観房源智の話も登場。ライブ終了後、新住職(智寧)もオマケで平家と



新屋まりさん

関係の深い念仏者熊谷直実と勢観房源智についてお話ししました。

熊谷直実は清盛と同時代の武将。後、親鸞聖人や勢観房源智と同じ法然聖人のお弟子(法力房蓮生)となるのですが、『平家物語』では、一ノ谷

の戦いで自分の息子ぐらいの年齢の平敦盛(清盛の甥)を討ち取ったことが出家の動機とされています。熊谷直実に宛てた法然聖人の直筆のお手紙には、「有縁の衆生をとぶらはんがため」急いで念仏以外の行で仏となるうとする直実に、「まづ必ず本願の念仏をつとめ」るよう諭されていて、直実の苦悩や、それに応答する法然聖人の真剣さが伝わってきます。また、勢

観房源智は平清盛の長男重盛の孫。平家の滅亡とともに出家しました。二人とも、親鸞聖人同様、時代の波に翻弄されながらお念仏に出遇われた方でした。

最後、蔵本通支坊のご講師は竹田嘉門先生。テーマは「生きていたら色々あるさ」。『御絵伝』の絵解きや甘酒のお接待もありました。昨年十月一日から今年一月末までの四ヶ月、報恩講・お念仏三昧の日々でした。



安雲南組総講習会
駒沢勝先生「医と私と親鸞」

二〇一三年二月二〇日
於クレイトンベイホテル